



# 男性養護教諭図鑑

レッツ発掘!

まずは自己紹介からお願いします!!

改めまして、昨年9月より本会事務局長を務めさせていただいております、望月と申します!  
出身は静岡県で、趣味はサッカー。現在も指導者として競技には携わっており、今年には日本サッカー協会公認A級ライセンスの取得を目標に、一層活動に力を入れていきたいと考えています。

本務のお話をさせていただくと、現在北海道の東部、釧路市にあります阿寒湖義務教育学校という小中一貫の義務教育学校で養護教諭として勤務しており、赴任2年目、通算の養護教諭歴としては6年目を迎えました。

現任校に着任する前は、関西圏の大学院に2年間在籍し、子どもたちの生活習慣を改善する取り組みに関する研究を行っていました。



Shohey Mochizuki

## 望月 昇平 先生

男性養護教諭友の会 事務局長

釧路市立阿寒湖義務教育学校  
後期課程 養護教諭

冒頭、新事務局長としてご紹介をいただきました。ズバリ意気込みをどうぞ!

まずは、事務局長として活動をさせていただいていることそのものに、とても感謝しています。この感謝を胸に「本会に関わってくださっている方全員で、活動そのものを盛り上げていく」ということを大きなテーマとして掲げ、そのために必要なサポートを事務局として行っていききたいと、そのように考えています。

例えば、若手教員が活躍できる場(実践発表やメディアへの露出など)を積極的につくり、人材を掘り起こしていくこと。これまで活躍されてきた中心メンバーだけに注目が集まるのではなく、個性豊かなキャラクターをもつ、新たなメンバーにもぜひ、注目していただきたいと思いますね。(笑)

みなさん、ブラボー!  
全員のかたで、もっと  
もっと会を盛り上げて  
いきましょう!!

昨年より、本会事務局長に就任。大学院での学びを経て現場へ復帰され、学校内外で活躍中の望月昇平先生にお話をうかがいました。

それと、男性養護教諭という存在への認知度が増している一方、「自身の男性養護教諭と実際に会ったことがない」といった方も、まだまだたくさんいらっしゃる。私の周りでも、そういった声を多く聞くので、どのような形であれ当事者に触れていただき、私たちのリアルを知っていただく機会を設けたい、といった想いをもっています。

先生が養護教諭を目指されたきっかけなどについて、お聞かせください

元々、私は大学で幼児教育を専攻していました。保育園や幼稚園での実習を重ねる中で、幼児の手当てをする場面に遭遇し、その折に周りのスタッフや保護者の方から「よく体調不良に気付いてくれたね」「助かったよ、ありがとう」「なに?」声を掛けていただき、「この経験が養護教諭という

職業に興味を持ちきつかけとなり、私自身にとっては大きな人生の転換となりました。

**普段、お仕事をされる中で大切にされていることなどはありますか？**

ありますね。「助け、助けられる」ということは意識して同僚と過ごすよう心掛けています。周りを見渡して、誰かが困っている様子を見つけたときは声をかけ、誰かが困っている様子を見つけたときは声をかけ、手を差し伸べる。そして、自分自身も困る場面に出くわした際はすぐに声を上げ、周りに助けを求めよう。そういった関係づくりは日々大切にしています。そんな中で、「望月昇平」も「男性養護教諭」への偏った見方も少しずつ減っていきつつあります。そんなことも頭の片隅では考えていますね。

それから、やはり「良い表情」で仕事をしたいなど常日頃考えていて。子どもたちや同僚に笑顔で接することで、相手にもその笑顔が伝わり、素敵じゃないですか？(笑)



**いま現在、力を入れて取り組まれていることなどはありますか？**

性に関する指導に積極的に取り組んでいます。本校は、自己紹介の折にもお話ししており、小中一貫の義務教育学校です。小学校6年間、中学校3年間、計9年間の見通しをもって子どもたちと関わる事ができるという強みがあります。そういった中で、自分のことも他者のことも大切にすることができ、学びを積み上げていく、といったことに力を注いでいます。そのためにも、まずは小学校から中学校への接続も含めて、指導内容の見直しや整理に他の先生方と協力して取り組んでいる真ん中です。

それから、大学院でも研究を重ねていた生活習慣の改善に関すること。ここにも力を注いでいます。一番望ましいのは、子どもたち自身が課題に気づき、改善の方法を考え、解決し、更に継続していくこと。そういった望ましいサイクルをまわしていくためのサポートとして、発達段階に合わせた指導を行っています。

**先生が感じられている「養護教諭」という職業への魅力を教えてください。**

そうですね、やはりシンプルですが子どもたちの元気な姿、生き生きとした姿を見ることには喜びを感じます。けがをしてしまった、気持ちが悪く落ち着かず保健室へやってきました、そんな子どもたちが養護教諭である自分との関わりを通して活気を取り戻して教室へ帰っていく。そういった瞬間には、魅力というかやりがいを感じます。

それから、目の前の子どもだけでなく、学校全体をみて自らの役割を考えられる点も、養護教諭

という職の魅力かなと。パズルのピースをひとつずつはめていくように、こまごま「ディネーター」的な役割にも取り組みつつ、色々なことがうまくまわっていくようにどう振る舞

うべきか。これは、経験を積み重ねていくことで多面的なアプローチができるようになると思うので、そういった点でまだまだ私自身も修行の身です。

**最後に、本协会会员のみなさんへのメッセージをお願いします！**

男性養護教諭友の会が発足し、様々な方々の支えがあって、今日この日を迎えることができている。次の大きな節目である20周年に向けて、これまで中心となって様々なシーンで活躍されてきたメンバーだけでなく、会員のみならず含め全員で一会の発展に向けて、ともに学び合い、高め合っていくことができたらと考えています。

これまで想像もできなかった、新たな活動の発掘や更なる発展に向けて、これからも頑張っていきたいと思います！

**みなさん、レポート！**



【発掘！男性養護教諭図鑑】

発行：男性養護教諭友の会事務局

担当：長野 雄樹（名古屋市立西養護学校）

